

私たち、ゲートボール
日本一の女子チームです!

九州の星

Star of Kyushu

| 90 |

頑張るあなたを
応援するコーナーです



第39回全国選抜ゲートボール大会 女子クラス優勝

チーム「ひまわり」(熊本市) メンバー紹介



とみなが もとこ
富永 公子 さん(76)

スポーツが好きでソフトボールやゴルフ、ミニパレー何でもしていました。友人から「ゴルフをやっていたらゲートボールもすぐに上手になるわよ」と誘われたのがきっかけです。始めたころは校対抗の試合がたくさんありました。ゲートボール歴はまだ15年くらい。ゲートボールは頭を使うから良いですよ!

はし もと かおる
橋本 香 さん(75)

夫婦でゴルフやバドミントンを楽しんでいて、主人が本格的にゲートボールを始めたのがきっかけ。主人が亡くなって13回を終えたくらいから、1人でも参加するようになり、娘たちも「ゲートボールしなっせ!」と応援してくれます。ゲートボールを通じて友人が増え、チームのみんなと出会えたことに感謝しています。



た なか やす え
田中 泰江 さん(76)

ゲートボールはもともと主人がやっていた。あちこちの全国大会やねんりんピックに何度も出場して、一緒に行動しているうちに自然と影響されて始めました。ゲートボール歴は30年くらいです。ゲートボールの魅力は仲間がいること、頭脳プレーであること、監督を信頼してチームでプレーすることですね。

し みず のぶ こ
志水 信子 さん(73)

母が町内でゲートボールをやっていたので始めました。ゲートボールの魅力は、打たれても負けても明日は行きたくなることです。試合に負けた日の夜は悔しいけれど、あくる日は悔しい気持ち半分減って、前向きな気持ちになってゲートボールと向き合う。そんなこんなでもう20年以上続けています。



たか はま き み こ
高濱 希三子 さん(76)

ゲートボール歴は約30年。孫の子守りをしていたら家の隣の公園でゲートボールをしていて、興味を持ったのがきっかけ。8カ月の孫を背負ってゲートボールを始めました(笑)。孫が小学5年生の時、世代交流戦と一緒に出場して全国2位になったのは良い思い出です。ゲートボールは、年齢も性別も国も違う人と交流できる素晴らしいスポーツです!

監督・主将



「ゲートボールは日本発祥のスポーツです。1947年に北海道で生まれ、1970年代に爆発的なブームが起きました。あまり知られていませんが、ルール統一や普及活動に熊本県は大きく貢献しています」

熊本県ゲートボール連合
理事長
なかしま としあき
中嶋 利秋 氏

抜群のチームワークと戦略で日本一に!

熊本市にはゲートボールで日本一になった女子チーム「ひまわり」がいる。70代の選手5人は普段、熊本市内で別々のチームに所属しているが、大会出場2カ月前から合同練習で技術を磨く。

ゲートボールと聞いて多くの人は「シニア層が公園でのんびりやる遊び」をイメージするだろう。しかし、実際にはチームワークが必要な戦略型スポーツで、現在は国際大会の開催や若い層にも広がりを見せている。

「ひまわり」は、主将の高濱 希三子さんが各チームで活躍していたメンバーに声をかけ2017年に結成。高濱さんは「大事にしたのは人間性。ゲートボールは団体戦なので、技術があっても協調



写真上下/「南部総合スポーツセンター」ゲートボール場(熊本市南区)での練習風景

性や明るさがないとダメです」と語る。

昨年の全国選抜大会では3位入賞を果たすも、結果を悔しがり「来年は私たちが頂点に立つ」と闘志を燃やした。

そうして迎えた今年6月、東京都で開催された全国選抜大会には、女子43チームが出場。激戦の末、チームは見事初優勝を果たした。

「日本一になったことで、今後は追われる立場になります。練習に励み、来年の大会に向け予選を勝ち進みたいです」

「ひまわり」という名がぴったりの明るく元気なチーム。ぜひ大会連覇の夢を叶え、笑顔の花を咲かせてほしい。